



よりそう

Side by Side



第143号

編集責任：中村

編集担当者三好・中村

氷を切る!!

＝大槌町赤浜地区，末田チームに参加して＝



↑ ツルハンでもはね返えすので、試しにノコで氷を切ってみる



↑ 強風のもと9人で活動，寒い!!



↑ 9人の執念で二間分のヘドロが^{戻り}また氷を全て除去。

私達は福島原発の事で、“想定外”という言葉が批判して来た。放射能のおそろしさを考えれば、その批判は最もである。ひるがえって、ぬが靴ひき据えてみると、大槌町赤浜地区で氷を割る作業になると誰が予想してあろうか。

いや、まったく固い!! ツルハンがはねおろす。厚さ2cm位が?

部分によっては、氷が布・木片・ガラス・陶器片をくっつけて30cm位の高さの固い。矢印の所、^{ごお}木枝の下に30cm位の^{おろ}塊があり、^{おろ}存か

存かづいもない。9人がわろがわろ ツルハン、大ハンシをひきようやく、突き出す。で、早夏のように、きれいに除去し、ス、判りする。誰もが同じ思ったように、30cmの塊が崩れ去るときは、「ほいりたふたね!!」と声を出し合う。

新しく建築が始まる。

この活動は、漁師さんが“番小屋”（道見置き場や休憩所、時には寝所にもなる）を建てようとしたのが、基礎石礎の上にヘドロが氷状に残っていては、暖かくならぬ時、水分になり、木材はくさる。それで除去を依頼された。すでにコンクリートの基礎礎の上に木材が据えつけられている。私にとっては、陸前高田上長部地区の木材をつけた休憩所以来の新しい建設の息吹である。（もともと仮設の高層も出来つつあり）ボランティアが立ち上がった地域のみなさんに、と手をさしあげる事ができるのは嬉しいことである。そして、地域の人々のその動きがボランティアにも勇気を与えて下さる。

尻本酒店の主人、暖かい接待?

PM2:40頃、終礼ミーティングが済むと、末田隊長にみちびか山、尻本酒店に入れてもらう。ご主人が「暖かい食事や物でもどうぞ。ホテルもアスもどうぞ」と暖かい接待。寒風吹きすさぶ中、氷割りの活動をたのびておしゃべりがいと嬉しかった。バスのドライバーのおもてなしも10人。ありがたく、いたたく。おもしろいコーヒーだった!!

船田浩二さん、ご苦労さまでした。

2011年5月以来、主に釜石市箱崎地区で活動され、隊長もいたたいた船田さんが1/5山梨県へ帰る中、本来の仕事に復帰、山岳が休むとします。長期間ご苦労様でした。



左：若林視隊長 右：船田隊長

シャワーは使えません。

浄化センター内の新ボランティアセンターに引越してから、静風ボランティア協会等計3団体でつくる「まごころ管」のシャワーを使わせていただいたのですが、凍結で壊れ、使用できなくなりました。従って各自でお風呂は各自に利用。但し入浴定期乗車の運行が計画

1/17 (火) 天気 晴れ

気温 4.0℃ (低) 5.0℃ (高)

降水確率 10%

まごころ種 募集

<わしくはHPへ

1/18 (水) ボランティアミーティングはPM15:10~17:00 参加者 39名
1/17 (火) の宿泊: 39人, 活動力: 50人 種